

大名いそげ、ゑい、六はあ、大名もどつたか、六いやまだ御まへを、さりもしませぬ、大名ゆだんのさ
せまひといふ事ぢや、

愈例

〔古事記下〕安康爾大長谷王子略○雄當時童男、即聞此事暴崩○安康以慷慨忿怒、乃到其兄黑日子王之許曰、

人取天皇、爲那何、然其黑日子王、不驚而有怠緩之心、於是大長谷王詈其兄、言一爲天皇、一爲兄弟、何
無恃心、聞殺其兄、不驚而怠乎、即握其袷、控出、拔刀打殺、亦到其兄白日子王、而告狀如前、緩亦如黑日
子王、即握其袷、以引牽來、到小治田、掘穴而隨、立埋者、至埋腰時、兩目走拔而死、

〔日本書紀二十〕舒明八年七月己丑朔、大派王謂豐浦大臣蝦夷○蘇我曰、群卿及百寮、朝參已懈、自今以後、卯
始朝之、已後退之、因以鐘爲節、然大臣不從、

〔日本書紀二十五〕孝德大化二年三月辛巳、詔東國朝集使等曰略○中其巨勢德禰臣所犯者、於百姓中、每戶
尤索、仍悔還物、而不盡與、復取田部之馬略○中其紀麻利者、施臣所犯者、使人於朝倉君井上君二人之
所、而牽來其馬、視之、復使朝倉君作刀、復得朝倉君之弓布、復以國造所送兵代之物、不明、還、主妄傳國
造、復於所任之國、被他偷刀、復於倭國、被他偷刀、是其紀臣、其介三輪君大口、河邊臣百依等過也略○中

以此觀之、紀麻利者、拖臣、巨勢德禰臣、穗積昨臣、汝等三人、所怠拙也、念斯違詔、豈不勞情略○下

〔大鏡三〕太政大臣實賴あつとしの少將は、男子佐理大貳、よのてかきの上手略○中御心ばへぞ懈怠し、
すこし如泥人とも聞えつべくおはせし、故中關白殿東三條つくらせ給ひて、御障子にうたゑど
もか、せ給ひし色紙形を、この大貳にかけとのたまはするを、いたく人さはがしからぬほどに
まいりて、か、れなばよかりぬべかりけるに、關白殿わたらせ給ひて、上達部、殿上人など、さるべ
き人々あまた参りつどひてのちに、日たかくまたれたてまつりて、まいり給へりければ、すこし
こつなくおぼしめさるれど、さりとてあるべき事ならねば、かきてまかりいで給ふに、女のさう
ぞくかづけさせ給ふを、さしてもありぬべくおぼさるれど、すつべき事ならねば、そこらの人の